

梶研究会の紹介 (2023募集用)

● はじめまして♪ 以下は、来年度ゼミ募集用に、主に1年生を対象に作成したのですが、外部の方がご覧になってもゼミの概要がわかる内容になっています。

途中までは、コロナ禍以前のゼミの内容や様子について説明しています。
2020年度以降、大きな特色である夏の沖縄離島ゼミ合宿が3年続けて出来なかったり、ゼミ後の懇親が出来なかったりと、制約を余儀なくされていますが、勉強する内容は基本的に変わりません。

言い換えると、コロナ禍においても、身近な場所でのフィールドワークも含めて、参加学生はゼミのテーマに沿った個人研究を行なってきました(*^^)v

2019年9月ゼミ合宿 沖縄県竹富島にて↓



●テーマは「**文化的景観とエコツーリズム**」です。

文化的景観とは「**自然と人間の共同作品**」といえるような、エコな暮らしぶりが表れた景観を評価する新しい考え方で、**見た目より中身**—伝統的な生業・生活文化の、自然との共生関係など—を重視します。この「文化的景観」という素材を、持続的な地域づくりに活かす手法の代表が**日本型の「エコツーリズム」**です。ゼミ生は各自が関心を持つフィールドや具体的テーマを選んで現地調査を行い、教室での個別発表を通じて成果を共有し合います。新参加者は、夏休みに催す**沖縄県八重山諸島ゼミ合宿**に、**3年次**に必ず参加してもらいます。



●ゼミ生の基礎教養となる授業は、梶裕史「**環境表象論 I・II**」という授業です(ゼミ生必修)。文化的景観をテーマとし、日本型のエコツーリズム、「五感」、民間伝承のなかのエコロジカルな「無形文化」等の関連事項について考察します。今年度のシラバス(講義の概要と計画)を、下記URLクリックにより読むことができますので、興味のある方はご覧ください♪

https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=2220392&nendo=2022&gakubu_id=%E4%BA%BA%E9%96%93%E7%92%B0%E5%A2%83%E5%AD%A6%E9%83%A8&gakubueng=AH&t_mode=pc

https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=2220400&nendo=2022&gakubu_id=%E4%BA%BA%E9%96%93%E7%92%B0%E5%A2%83%E5%AD%A6%E9%83%A8&gakubueng=AH&t_mode=pc



●学部のコース制で関りが深いコースは、**人間文化コース**または**ローカルサスティナビリティコース**です。



- 新規参加者(主に2年生)は、**金曜5限のAゼミ**を履修し、3年次には金曜4限のBゼミも、夏合宿の予備学習用に履修してもらいます。(金4Bゼミは、一般新規募集ナシ)
- 教員とゼミ生相互、そしてゼミ生同士の交流・親睦を深める機会として、コロナ前はゼミ後(金曜夜)にほぼ毎週、安価な懇親会を開いてきました♪(任意参加。コロナ以降は、現在も中止)



← →
2021
秋合宿
(3年生
が参加)



夏の約1週間強の沖縄離島合宿は、伝統行事の見学と手伝い、島の方々との交流会、サンゴ礁シュノーケリングなどの自然体験と、非常に濃い体験になります。自然に寄り添った伝統的な生活文化を今も守ろうとしている姿を肌身で実感でき、参加する学生の絆も一気に深めます(*^^)vが、残念ながら3年続けて中止となり、去年は秋の学祭休み期間を利用した短縮合宿を行い、今年も同様の予定です(^; (以前は2年次の夏に実施していましたが、コロナ禍のため3年次になりました) 4



島で親しい方が、地元の新聞の通信員をしている関係で、合宿のことをささやかな記事にしてくれます。竹富島で最も大きな秋の祭りに、雑用役として手伝いに行き、貢献する学生もいます。

『島への愛』が伝統を守る
法政大生が竹富島と自保合宿

八重山県竹富島の美しい風景を背景に、法政大学学生が自保合宿を行っています。学生たちは島の文化や伝統を学び、地域貢献活動に取り組んでいます。

古謡の保存と継承を
西表島で恒例の発表会

西表島の伝統文化「古謡」の保存と継承を目的に、恒例の発表会が開催されました。学生たちは古謡の魅力を伝え、地域住民と交流しました。

9月8日付 9月8日付の新聞記事の抜粋。記事は、法政大学学生が竹富島で自保合宿を行っている様子について述べています。

『八重山日報』
⇨2019年9月

2016年11月⇨

このブロックには、『八重山日報』の2019年9月の表紙と、2016年11月の記事の一部が掲載されています。

種子取祭で座待を体験

種子取祭の伝統を体験する法政大の金子大介さん。記事は、金子さんが種子取祭に参加し、座待を体験した様子について述べています。

「ついでみの心見た」
法政大の金子大介さん

金子大介さんが種子取祭に参加し、座待を体験した様子について述べています。

美味いお水で便利に始めませんか

このブロックには、種子取祭に関する記事と、水に関する広告が掲載されています。



費用は約11万がかかりますが(^_^)、一生の思い出になる貴重な日々です。3年次の学年末は、主にこの合宿の成果論文にまとめ、2年次は、講義「環境表象論ⅠⅡ」や先輩の研究発表から学んだ刺激で、自ら1人旅またはグループによるフィールドワークを企画・実施し、論文を書きます(4年次も個人研究)。



～ゼミ生より～ 個人研究テーマは多彩 ♪



総合テーマに関わる具体的テーマは、とても幅広くて、**自分の研究とつながりを見つけた意識で、ゼミ仲間の発表を聴くと、先生がよく使う表現で“有機的に視野が広がっていく手応え”**があります。前年度の学年末論文をベースに、最近発表されたテーマを、ざっとあげてみると次の通りです。

- ▶ まちなみ保全をささえる「無形」要素(住民に共有されるセンス・オブ・プレイスなど)
- ▶ 地域文化の核である地域のことば(＝方言)や、方言で歌われる民謡の果たす役割
- ▶ 共生の生活文化を活かした自然保護(「五感」を活かした生業・生活の技、生きる知恵、自然への信仰心、またそれらをベースにした新たな取り組みなど)
- ▶ 日本人の「旅」の文化と自然環境との関わり(海・山に関わる信仰、樹木、動物、温泉 etc.)
- ▶ その場所に関わる文学・芸術作品、伝説・昔話、映像作品等(＝目に見えない無形文化)を活かしたエコな地域づくり:フィルムツーリズム、アニメツーリズム、アートによる地域づくり など
- ▶ 伝統的な食文化関連(キーワード例:スローフード、6次産品、グリーンツーリズムなど)
- ▶ 感覚環境のまちづくりと人間形成(灯りと闇、「音風景」「かおり風景」など)



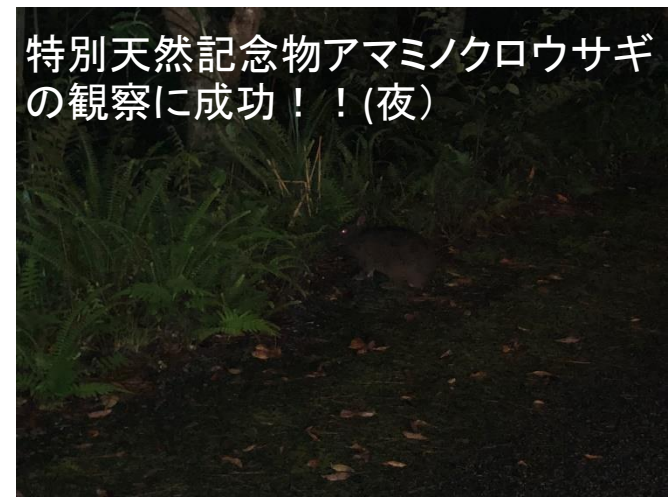
● 梶先生はよく「バラバラの知識では無意味。(いろいろ学んだことが)自分のなかで一つにつながることが、この学部ならではの収穫であり、生きた“教養”だ」と言います。ゼミ生個々の研究は、先生の「好きこそものの上手なれ！」の勧めによって、それぞれの持ち味を活かして行われるので、どれも新鮮です。いいかえると、このゼミは個性派集団で、各自が総合テーマに沿って好きなことを個人研究するのですが、それでいて底には共通性がある面白さがあります。(4年生)

自主的な「一人旅」の意義

● 学部にはフィールドスタディという現地実習授業があり、梶先生も参加を勧めていますが、そのFSで先生方が組むしっかりしたプログラムには遠く及ばないとしても、現地でのヒアリングが必修とされる「一人旅」(共同訪問も可)を企画して実行してみる体験は大変貴重です♪ 自分で現地の活動団体に(初対面で)連絡したりするのが正直、億劫だったり(笑)、勇気が必要だったりで、下手で効率はよくないですが、すべて自分で組み立てるわけですから。個人で訪ねると、若者は現地で歓迎されるというか、非常に親切にしてもらえることも多いです☆ (4年生)



2019年9月 3年生(当時)は奄美大島自主合宿を実施☆



特別天然記念物アマミノクロウサギの観察に成功!! (夜)



黒マグロの養殖生け簀でシュノーケリング

中学・高校と6年間奄美大島に住んでいたゼミ生のコネクションで、2年生の夏に梶が催した八重山合宿になって、3年生14名は奄美で合宿を行いました♪ まもなく世界自然遺産に登録される見込みの貴重な自然や、自然に寄り添う島の生活文化の一端を体験することが出来ました。 9



ふだんは、勉強態度についてよく説教しましたが(笑)、この自主合宿については、教員の引率なしでよくぞこれだけ充実した合宿を実施した、と手前味噌ですが褒められる充実した内容でした(*^^)v

個人研究は、「一人旅」が多いのですが、このような二人以上のグループ研究もOKです♪



“Withコロナ”のゼミ内容

●ここまで説明を読まれた方は、ゼミ行事としての合宿や、フィールド調査型の個人またはグループ研究が、学年末ゼミ論文を書くのに非常に重要、という印象を持たれたことと思います。

・・・ただし、このゼミと密接な関係がある「環境表象論ⅠⅡ」の内容は、遠くに泊りがけで出かけないと学べない、というものではありません。

身近にも「文化的景観」にあてはまる素材や、関連する事柄は豊富にあります★
「環境表象論ⅠⅡ」から、個人研究のヒントを数多く見出すことができます。具体的には、hoppilにサンプルとしてあげた「環境表象論」のオンデマンド教材を読んで、実感してほしいと思います。

たとえば毎年沖縄の離島でゼミ合宿をやるのも、「沖縄の離島研究のため」が最終目標ではありません。島での実体験の収穫を、身近な日常生活に何らかの形でフィードバックするのが目的である、といえます。沖縄の島で学んで欲しいのは、「エコな(≡持続可能な)ライフスタイル&そのもとになる価値観・幸福感」であり、学べたことを少しでも自分の日常のライフスタイルに採り入れる、というのがその「フィードバック」にあたります。

言い換えると、「エコなライフスタイル、それにかかわる価値観・幸福感」の素材は、たとえば都会暮らしのなかでも、あるいはほんの少し日帰りで郊外などに出かけるだけでも、スライド7にあげたような具体例がたくさんあるのです♪

“Withコロナ”のゼミ内容

【現4年生 2020年度学年末論文タイトル】

- ・都市のライフスタイルにおける農や食の関わり方ー横浜・湘南地区ー
- ・海に囲まれる島の魅力ー江の島：愛される観光地としての側面と、暮らしの場としての素顔とー
- ・江ノ島ー暮らしや観光から考える景観的価値ー
- ・箱根観光とアートツーリズム
- ・歴史、文化を継承し続ける景観ー成田山新勝寺・門前町の景観の在り方を探る
- ・成田山門前町が目指す景観
- ・佐原の歴史的一面を活かしたまちづくり
- ・熱田神宮を生かしたまちづくりー熱田の町の復興についてー
- ・お茶農業の存続の意味と存続の方法
- ・千葉県の水産業と人々の関わりー水産業が支える文化と経済ー
- ・アニメツーリズムについてー鎌倉の暮らしと聖地巡礼ー
- ・「ぼくのなつやすみ」から見る日本型エコツーリズムの可能性
- ・少子高齢化社会に生きる子供たちの暮らしの変化
 - ー現代の子供たちにとっての「五感」の重要性：茨城県日立市を事例にー

タイトルにみえる地名について、東京・神奈川・埼玉・千葉などの場合は、自宅から日帰り圏内の現地調査。遠い地方の場合は、**その学生の実家がある**(または祖父母が住んでいる)地域で、**帰省時に個人調査**を行なったか、あるいはその地域や団体のオンラインの催しに参加したもの、とってください。

また、特定の場所にとらわれないテーマ設定も、可能なことが分かります♪
このように、コロナ禍で合宿や泊りがけの個人研究旅行が出来なかったとしても、ゼミで有意義な個人研究が可能です(*^^)v

今年(2022)の2年生の個人研究テーマ(現時点)

宿泊現地訪問型

- 👤 河口湖の文化的景観とエコツーリズム—富士山との関り—
- 👤 伊豆諸島式根島の「ワーケーション」のとりくみ—移住促進の試行
- 👤👤 瀬戸内海小豆島の産業・エコツーリズムと移住促進のとりくみ
- 👤 金沢の伝統的なまちなみとアート—伝統文化を活かしたアートの試み—
- 👤👤 「音風景」としての方言—山形県置賜地方の民話方言語りを中心に—
- 👤 岡崎市とユーチューバー発信—人気ユーチューバーによる地域振興の可能性と課題の考察—

(地方の実家帰省時の調査型)

- 👤 阿蘇の文化的景観とエコツーリズム
- 👤 別府温泉の文化的景観とエコツーリズム・まちづくり—「暮らす」視点から—

日帰り複数回訪問型

- 👤 箱根の美術館—アートツーリズムの視点から—
- 👤 川越の文化的景観—五感（特に「食」）の視点から—
- 👤 東京に残る下町の文化的景観—「無形」要素に着目して—
- 👤 東京近辺に残る大規模緑地の意義—生田緑地を中心に—

今年度は、未だコロナが終息していないとはいえ、予防に注意しつつ宿泊型の個人研究旅行を行うことは十分に可能と判断し、**宿泊型も推奨**しています☆

顔マーク 1つは一人旅、2つは二人旅（＝グループ研究）です。

宿泊型は1回の場合最低2～3泊以上（再訪できるとなおベター）。

日帰り訪問型は、距離にもよりますが、近ければ何度も足を運ぶことが必須
です♪ 現地訪問時期は、夏休みに限らずいつでも可、としています。

ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

○ゼミの長所と思うことは、

- ・ 梶先生と学生の距離が近いので和やかな雰囲気楽しく授業が受けられること。
- ・ 学生の発言から先生が話を広げてくれることが面白い。梶先生の豊富な知識や経験の話を聞くことが楽しい。
- ・ 学生は十人十色。誰にでも話しかける人がいたり、恋人大好きな人がいたり、アニメ好きがいたり、キラキラネームの子、ダンス上手な子、ディズニーオタクな人……等々。
- ・ 海が好きな人や皆で楽しく過ごすことが好きな人には好適と思います。（4年女子）

○梶ゼミは梶先生を筆頭にとっても他のゼミに比べて明るい雰囲気、いい意味でゼミらしくないゼミです。先生は「多様性」を大切にしており、研究のテーマの自由度が高く、とても多種多様なことをゼミ生同士で多く学べるゼミです！（4年女子）

○梶ゼミは、先生や先輩後輩の垣根が低く親しみやすい所が良い所です。また、ゼミ合宿では、普段では経験できない素敵な経験もできます。（4年女子）

○このゼミでは、ゼミのテーマに逸れていなければ、自分で選んだ題材で、共同でも個人でも研究を進めていける点が面白いと思います。（4年男子）

○このゼミでは、現地調査を通して本当に貴重な経験ができると思います。机の上だけでは治らず、現地の人々の人生に触れる機会が多いことも大きな魅力の1つです。必ず入って良かったと思えます！（4年男子）

○先生から学生まで多彩で個性的なキャラが多いにも関わらず、フランクで話しやすい雰囲気を持っているため馴染みやすいと思います！また、五感で学べることも多いため、興味関心が刺激されること間違いなしです！（4年男子）



ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

○サークルのように仲が良く、卒業してからも一生の友達ができると思います。特にゼミ合宿は親睦を深める一大イベントです！ 梶先生も、茶目っ気が豊かでとてもフレンドリーで親しみやすいです！（4年男子）

○梶ゼミでの学びの特長は楽しみながら勉強するという点だと思います！合宿では個性豊かな仲間と一緒に体験しながら学び、自分自身の価値観にも良い変化をもたらしていると思います！（4年女子）

○ゼミ合宿では沖縄の白保・竹富島に行き、他のゼミでは得られない貴重な体験ができると思います。親しみやすくてみんな個性豊かなので、とても楽しいゼミです！（4年女子）

○生徒同士だけでなく梶先生とも近い距離感で話をすることができるため、和気藹々とした雰囲気の中で授業をすることができます。また、自分がやりたいと思った研究にも、積極的に取り組める環境です。（4年女子）

○沖縄についての学習が多いですが、先生が現地に行った時に撮った写真がとても多く、それをみながら学習できるため、雰囲気を感じながら学習できます。（3年男子）



ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

○梶ゼミには学部の中でも「うるさい」人達が集まってる気がします(良い意味で 笑)。すなわち明るい人達が多く、ゼミ、ゼミ以外関係なく、学校生活が充実する友達を見つけることができます。(3年男子)

○ゼミに参加して良かったと思う点は、ゼミの雰囲気がとても温かいところです。優しい人が多くて、分からないことや心配なことを相談できる仲間や先輩の存在が本当にありがたいです！(3年男子)

○このゼミは研究対象の幅広く、発表で様々なテーマの研究を聞くことができ非常に面白いです。そして、何よりゼミ生同士仲がよく、明るく楽しくゼミに取り組めます。(3年女子)

○梶ゼミでは、出身が地方など色々なバックグラウンドを持っていたり、様々なことに興味関心があるなど個性的なゼミ生が多いため、研究内容が多様であること、そして自分自身の価値観や視野を広げることができる点が特長だと思います。また、他のゼミと比べて、学年ごとの縦の距離感がとても近く、休日に一緒に出かけるくらい仲がいいことも最大の魅力です。(3年女子)

○梶先生が優しく気さくな方なので、ゼミの雰囲気も和気藹々としていて楽しいです。個人研究は、各々が興味を持ったことに取り組めるので色々なテーマで研究している人がおり、勉強になります！(3年女子)



○島の伝統・文化・歴史・生きる姿勢など全く都会とは違うものを様々なバックグラウンドを持った同期・先輩と仲良く学ぶことができます！(3年女子)

ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

○私がこのゼミに参加して良かったと思う点は、自分の学びたいことを幅広い選択肢の中から選ぶことができる点、また、人との関わりを大切にしている人が多く、どの学年も雰囲気の良い点です。（3年女子）

○梶ゼミは個性豊かな面々が揃う楽しいゼミです。また、他の勉強やアルバイト、サークルとも両立しながら参加しているゼミ生が多いです。楽しく刺激的なゼミ生活を送りたいという方は是非梶ゼミを選んでください！（3年女子）

○授業中にグループワークで話し合うことも多く、同期・先輩・後輩関係なく親睦を深めることができる点が数多くあるこのゼミの特長の一つであり、入って良かったと感じる点です！梶ゼミに入って、学びも友好関係も充実させましょう～！^^（3年女子）

○梶先生や梶ゼミ生はフランクで話しやすい雰囲気を持っている人が多いので馴染みやすいのではないかと思います。堅苦しさがなく色々なキャラクターの人がいるので面白いです。（2年男子）

○梶ゼミに入ったことで旅の楽しみ方が変わり、ただ有名な観光地を巡ったりインスタ映えな写真を撮るだけではなく、旅先での過ごし方やそこで出会った人たちとの交流を大切にし、より旅先の地域について自分の五感を使って深く知ろうと思えるようになりました。（2年男子）



ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

○このゼミの長所は、ゼミの学問分野内であれば、自由に好きなことを学ぶことが出来る所です。先生もゼミ生の主体性を尊重してくれるので、民俗学や環境文化などに興味があれば学を深めることが出来ると思います。(2年男子)

○このゼミに入って良かったことは研究対象が幅広いことです。ツーリズムやアミニズムの視点は日本全国に通ずるもので有り自分の興味のある分野を探すことができます。(2年男子)

○このゼミの魅力は、いつも明るい雰囲気なところだと思います！研究テーマも幅広く設定できるので、本当に自分の興味があることを楽しく勉強できます！(2年女子)

○梶ゼミでは自分の興味のある分野ももちろん、興味がさらに広がるような発表も多く、すごく自分のためになることが多いです。是非入ゼミしてください！(2年女子)

○自分が関心のあるテーマに対して、自由度高く取り組むことができます。また、ゼミの雰囲気も堅苦しくないなので、気負わずに参加することができるのではないのでしょうか。(2年男子)



以上、簡単ですが梶研究会についての紹介を読んで下さり、ありがとうございました！¹⁸